

### 西中図書館 新刊オススメ本

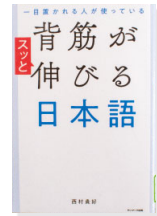


『認知症世界の歩き方  
認知症のある人の頭の中を  
のぞいてみたら?』  
[寛裕介 著]  
ライツ社

この本は、なかなか理解してもらえずに困っていた「認知症のある方が実際に見ている世界」をイラストと旅行記の形式で、誰もが分かりやすく身近に感じられるようまとめられています。

医療従事者や介護者視点ではなく、認知症のある人の心と身体には、どんな問題が起きているのか、そして、いつ・どこで・どのような状況で生活のしづらさを感じているのか…、この大切な情報が不足していることが原因で、認知症に関する知識やイメージに偏りや差別が起き、誤った対応をしているのかもしれない。

さあ、あなたも認知症の世界を旅してみませんか？



『背筋がスッと伸びる日本語』  
[西村貴好 著]  
サンマーク出版



『山亭ミアキス』  
[古内一絵 著]  
KADOKAWA



『夜が明ける』  
[西加奈子 著]  
新潮社

第166回直木賞受賞作品



『塞王の楯』  
[今村翔吾 著]  
集英社

### 町民ギャラリー 出ヶ原和紙作り講座

町公民館では、地域文化を再生し、和紙の新たな可能性の発見を目的とした「出ヶ原和紙作り講座」を昨年度から開催しています。前月号に続き、本講座に参加した皆さんが自分で漉いた出ヶ原和紙を使って作成した作品を紹介します。

今日は、佐藤幸悦さん（出ヶ原）の作品です。

#### 作品によせて…

- ① 屋敷地区で作っている風車の土台に、出ヶ原和紙を貼った羽根をつけてコラボしてみました。木と和紙の色合いがやさしい素朴な作品になりました。
- ② ボトルに和紙を貼り、中にLEDライトをセットしてボトルランプシェードを作りました。身近にあるものに和紙を貼るだけでも楽しめます。
- ③ 丸いランプシェードは、ゴムボールに和紙を貼り、乾燥させてからゴムボールの空気を抜き、それを取り出して完成です。



## ニュースポーツ紹介 “モルック”



町公民館では、グラウンドゴルフやカローリングなど、子どもから高齢者まで「いつでも、どこでも、誰にでも」気楽に参加できる「ニュースポーツ」を推奨しています。

今回は、全国でも話題となっているニュースポーツ「モルック」を紹介します。



道具は、「モルック」と呼ばれる投げる木製の棒と、「スキットル」という1から12までの数字が書かれた木製のピンを使います。競技は、右の写真のようにスキットルを並べ、そこにモルックを投げて倒すことで得点を競い合います。

モルックとは  
モルックは、フィンランドの伝統的なゲームを元に開発されたスポーツです。このスポーツが盛んであるヨーロッパでは、世界大会も開催されています。

④ いずれかのチームが50点ちよどの点数を先取した時点でゲーム終了となります。50点を超えて得点した場合、25点へ減点されゲームは継続されます。



① スキットルを上の写真のように並べます。  
② チーム以上で対戦するため、投げる順番を決めます。その順番どおりに、離れたところからモルックを下手投げで投げて、スキットルを倒れます。得点はスキットルの倒れ方によって異なります。  
③ スキットルは倒された場所に再び立てられます。ゲームが進むにつれてスキットルの位置が広がり、倒すのが徐々に難しくなってきました。

#### モルックのルール

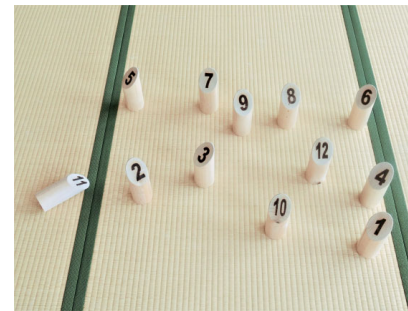
#### ◆得点の例

○ 2本以上倒れた場合は、倒れた本数が得点になります。



▶ 7本のスキットルが倒れているため、得点は「7点」

○ 1本しか倒れなかった場合は、倒れたスキットルに書かれている数字が点数になります。



▶ 11番のスキットルのみが倒れているため、得点は「11点」



▲ モルックを楽しむ成人講座の皆さん

○ スキットルが完全に倒れていない(重なって地面についていない)場合は得点になりません。  
**講習会を開催中!**  
町公民館では、地区に出向く出前講座などでモルックの講習会を開催しています。開催を希望する場合は、自治区や老人クラブ、サロンなどの団体で申し込みください。なお、詳しくは問い合わせください。  
**〈問い合わせ先〉**  
町公民館(社会体育)  
☎ 45-2719